



ひょうごの遺跡

平成21年(2009)
12月20日発行

73号

兵庫県立考古博物館

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1 TEL079-437-5589 FAX079-437-5599
ホームページアドレス <http://www.hyogo-koukohaku.jp>

特集号

兵庫県立考古博物館企画展

兵庫県立考古博物館では、整理作業が済んだ出土品をいち早く皆さんに見ていただくため、企画展を実施することになりました。

そこで、今回の『ひょうごの遺跡』では、企画展「ひょうごの遺跡 vol. 2」で展示されている出土品のご紹介をします。

企画展 ひょうごの遺跡 vol. 2 ～復元された出土品、初公開～

期 間 平成22年1月16日(土)～2月28日(日) ※月曜日は休館

場 所 兵庫県立考古博物館 特別展示室



遺跡から出土した遺物は土にまみれ、壊れたり、さびてボロボロになっていたりします。このような出土品はきれいに洗い、保存処理を行い、もとの形に近づけていきます。

こうして行われる整理作業は、数年にもわたります。

新しくよみがえった出土品をこの機会にぜひご覧下さい。



坂元遺跡(加古川市野口町)出土

(左) 埴輪(石見型盾形埴輪)と須恵器(装飾付器台)
/古墳時代後期

(右) 埴輪(武人埴輪)/古墳時代後期

さかもと 坂元遺跡 ー加古川市野口町ー

兵庫県内で初めて調査された埴輪の窯で、古墳時代後期（6世紀）のものです。

埴輪は古墳の周りに立て並べるため大量に焼かれますが、兵庫県内では、それらを焼いた窯については未確認でした。それがついに坂元遺跡で確認されました。

2基の窯跡が見つかり、そのうちの1基は形象埴輪（ものをかたどった埴輪）が中心に焼かれていました。家・人・鹿・馬や石見型と呼ばれる盾の形をした埴輪も見つかりました。

石見型盾形埴輪は兵庫県内では10遺跡で確認されており、明石川流域から特に多く見つかっています。



縄文村の発見

とうなん 東南遺跡 ー揖保郡太子町ー

縄文時代後期の村が見つかりました。竪穴住居が2棟、掘立柱建物1棟のほか、穴も見つかっています。

出土した遺物は縄文土器が主で、特に深鉢が中心です。波打つような口縁である「波状口縁」の頂部に渦巻文をつけ、そこから波紋が広がるような「対向弧線文」とよばれる文様がつけられています。

東南遺跡では、他の場所からも竪穴住居などが見つかっており、今後の検討によって縄文村の全体像が明らかにできそうです。



縄文土器（深鉢・浅鉢）／縄文時代後期



ちょっと変わった弥生土器

かみかわ

上三河遺跡 一佐用郡佐用町一

千種川中流の段丘上に営まれた遺跡で、縄文時代から中世までの複合遺跡です。

弥生時代の中頃（紀元前3世紀頃）の穴には左のような「ひょうたん」形の壺が置かれていました。この壺の底付近には直径1センチ程度の穴が開けられています。

また、下のような首の無い壺（無頸壺）もみつかりました。どちらも、あまり見られない形の弥生土器です。出土状況から墓に供えられた可能性も考えられます。



小学生が見つけた渡来系の土器

ちくまみやのまえ

竹万宮ノ前遺跡 一赤穂郡上郡町一



文様を描く道具
(想像図)

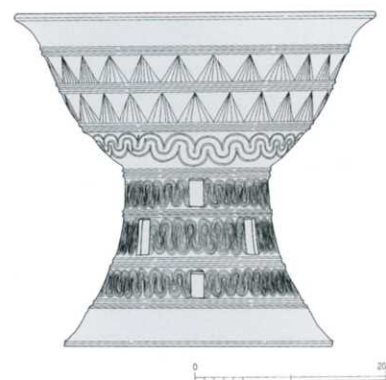
須恵器（コンパス文器台）／古墳時代中期

近くの上郡町立上郡小学校・山野里小学校の児童が発掘調査に参加しました。

その結果、全国でも稀な古墳時代中期（5世紀頃）の土器（須恵器）が見つかり、新聞紙上で大きく報じられました。

その土器には、朝鮮半島東南部で見られるコンパス文（3本足のコンパスで描いた文様）が描かれています。日本国内では、これまで5例しか見つかっていない貴重な資料です。

この土器以外にも、煙突と考えられている円筒形土器や、小型平底鉢といった渡来系特有の土器が出土しています。遺跡の近隣には渡来系氏族の秦氏をまつる大避神社があり、遺跡との関連が注目されます。



コンパス文器台の復元図

渡来系氏族「忍海部」関係の墓か？

いわや
窟屋1号墳 ー三木市志染町ー



大刀飾り（金銅装単鳳環頭大刀柄頭）／古墳時代後期

金色に輝き、大きく開けた口で玉をかむ鳥。
古墳時代後期（6世紀中頃）に作られた刀の飾りです。古墳から見つかったので、亡くなった人のそばに置かれていたのでしょう。

この古墳からは貝の飾りがついた乗馬用の道具（馬具）や、木の棺に使われた鉄釘もみついています。貝製飾りの馬具は関東・九州地方に多く見られますが、近畿地方では珍しいものです。

また、釘の形からは渡来系工人の居住地である忍海地域（奈良県の大和盆地南西部）との関係が考えられます。『日本書紀』清寧紀には当地域に「忍海部造細目」という有力者がいたことが記されており、この古墳に眠る人物は忍海部と関係があったのかもしれない。

現在、古墳は県立三木総合防災公園内に移築復元されています。

淡 路

和歌山との交流を物語る土器

しもがも
下加茂遺跡 一洲本市下加茂一

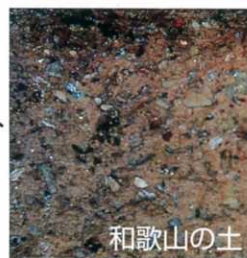
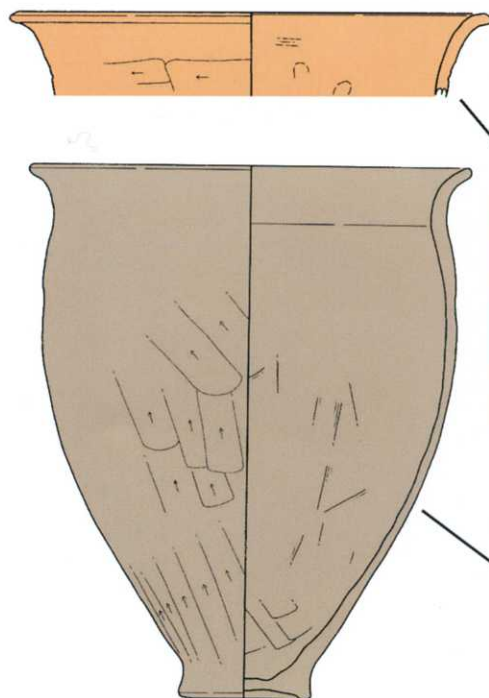
土器は縄文時代に発明されて以来、人々にとって生活必需品となり、人の住むところには必ず土器がありました。

土器はその地域でとれる粘土を使って作られるので、土器そのものに含まれている土の成分を観察すると、どの地域の粘土を使って作られたのかわかる場合があります。

下加茂遺跡からは、結晶片岩を含む和歌山の土で作られた弥生時代前期～中期の土器が見つかり、和歌山から淡路に人と共に土器が動いてきたことがわかりました。

また、別の土（地元産か？）を使った紀伊型の甕も見つかり、移動した和歌山の人々が別の地域で土器づくりをしたことが考えられます。

土器の特徴を調べることで、2,000年以上前の人の動きが見えてきます。



弥生土器（下加茂遺跡出土の紀伊型甕形土器）／弥生時代前期～中期

鳥がはばたく中国製の鏡

わかす 若水古墳群 一朝来市山東町一



銅鏡（飛禽文鏡）／古墳時代前期

古墳時代の鏡には裏側に様々な文様が描かれていました。

左の写真は古墳時代前期（3～4世紀）に築造された若水古墳から出土した青銅製の鏡で、「飛禽文鏡」と呼ばれています。

左右に羽を広げた鳥の姿が鑄造され、胴の部分に鈕（ちゆう）を置いています。

同種の鏡が中国、特に華北東部で多く見つかっており、そこで2世紀後半ごろに製作され、但馬までもたらされた可能性が考えられます。

駅家で働く人と教科書

しば 柴遺跡 一朝来市山東町一

古代の日本では、全国に道が造られ、都と地方が結ばれました。道には駅（駅家）があり、馬が用意され、リレー式に人や物、情報が行き来しました。

柴遺跡は発掘調査の結果、都と山陰地方を結ぶ古代山陰道の駅家の一つ「粟鹿駅家」^{あわがのうまや}に関する遺跡であることがわかりました。

出土品には、文字が書かれた木の札、「木簡」^{もっかん}があります。右の木簡には「委文部豊（または置）足」^{しどりべ}という駅家で働く人（=駅子）^{えきし}の名前が記されていました。

（表）

（裏）

悦
乎
有
朋
自



子
乎
有
子



左の木簡の両面には、孔子（紀元前5世紀頃の中国の思想家）の教えを書いた『論語』学而篇第一・二にある、

「子曰 学而時習之 不亦悦乎 有朋自遠方来 不亦楽乎 人不知而不愠 不亦君子乎 有子曰 其為人也 孝弟而好犯上 者鮮矣。」

という一節が記されています。出土品は折れていますが、本来は全文が書かれていたのでしょう。

『論語』は奈良～平安時代の役人が勉強のために読んでいたようです。

現在でも人生訓として解説本が本屋さんに並んでいます。

『論語』が書かれた木簡／奈良～平安時代



駅子 委文マ豊 足十束代稻粉一尺

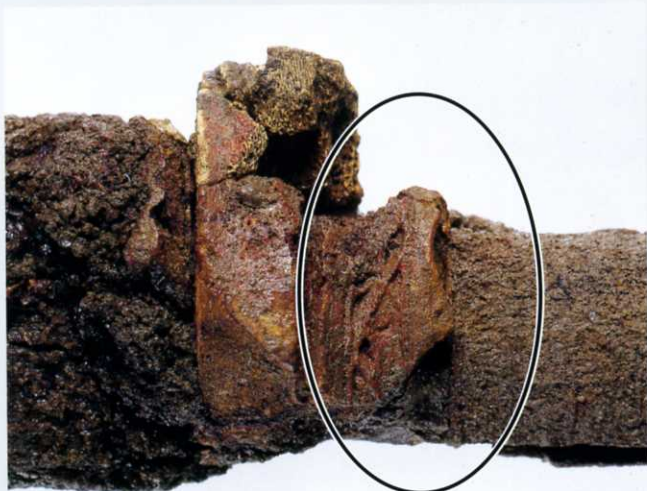
一部
または
置

駅子の名前が書かれた木簡／奈良～平安時代

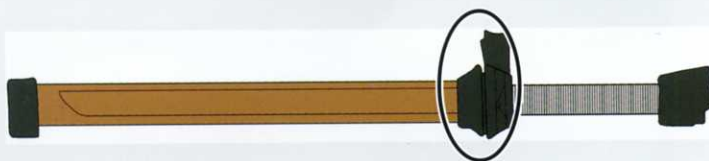
丹波

刀を飾るまじないの文様

つかのやま
塚ノ山1号墳 一篠山市野間一



刀の飾り（鹿角製直弧文刀装具）／古墳時代中期



塚ノ山1号墳からは亡くなった方に供えられた刀が見つかりました。その刀には不思議な文様が描かれていました。

直線と弧を使い、一定の法則をもって描かれた文様。私達はこれを「直弧文」と呼んでいます。

直弧文は古墳時代を通じて使われており、刀だけでなく、盾や船、石棺などにも描かれています。

邪悪なものを封じ込め、あるいはそれを寄せ付けなくするために描かれたと考えられています。

丹波に届いた朝鮮半島の影響

なかさし
中佐治古墳群 一丹波市青垣町一



中佐治古墳群は、5世紀から6世紀にかけての短期間に築造されました。6基以上の古墳が3支群に分かれて、列をなして構築されており、その一つである5号墳は「竪穴系横口式石室」という埋葬施設をもった古墳であることが確認されました。

竪穴系横口式石室とは、出入口のある横穴式石室の一種で、入口より石室が一段低くなる特徴をもった石室です。

朝鮮半島に起源をもつこの種の石室ですが、日本国内にも広まっていることから直接的な影響かどうかは今後の検討が必要です。

また、4号墳出土の鉄鉾についても半島からもたらされた可能性が考えられています。



弥生時代の治水工事

はらだにし
原田西遺跡 一伊丹市岩屋一

水田で稲作をはじめた弥生時代になると、「水」は食糧生産に大きな影響を与える大切なものとなりました。遺跡からは弥生人が川をせき止めたり、護岸をしたり、水路を掘削したりした跡が見つかり、当時の人々の苦労がうかがえます。

原田西遺跡では、猪名川につながる川の跡と、そこに設けられた弥生時代中期（紀元前3世紀頃）の堰（せき）が見つかりました。

何重にも築かれていることから、何度も補強をしたり、川の流れの移動に対応して造り変えられたりしたようです。



県立有馬高校の下で見つかった城跡

さんだじょうあと さんだじんやあと
三田城跡・三田陣屋跡 一三田市天神一



三田青磁／江戸時代

三田城は武庫川の流れる重要な場所に築かれた平山城です。寛永10年（1633）、戦国期以来の城を九鬼久隆が拡張して構築しました。城の中心は今の三田小学校あたりで、二の丸は有馬高校にあたります。

有馬高校の校舎を建設するために発掘調査をしたところ、堀、二の丸、武家屋敷が見つかりました。出土品は主に堀の中から見つかっており、江戸時代終わり（19世紀前半）以降の陶磁器類などがあります。

平成21年度
企画展

ひょうごの遺跡

vol.2

～復元された出土品、初公開～

昨年度に復元、保存処理を行った出土品を初公開します。

期間

平成22年1月16日(土)～2月28日(日)
【月曜日は休館】

■ 観覧時間 午前9時30分～午後5時（入館は30分前まで）

■ 観覧料金

- ・一般 …………… 200円（160円）
- ・高校生・大学生 …… 150円（120円）
- ・小・中学生 …………… 100円（80円）

※（ ）内は20名以上の団体料金
※ コロンカード提示で無料
※ 障害者手帳提示で本人と介護者1名は半額
※ 県内在住の65歳以上の方は半額

関連事業

i) 講座

当館学芸員が展示資料に関する講座を行います。

（会期中の土曜日に3回、13：30～15：00）

- 1月23日(土) 渡辺 昇 「県内初の埴輪の窯跡ー加古川市・坂元遺跡ー」
- 2月6日(土) 上田健太郎 「渡来人のいたムラー上郡町・竹万宮ノ前遺跡ー」
- 2月20日(土) 岸本 一宏 「但馬最古の王墓ー朝来市・若水古墳ー」

ii) イベント 「鬼瓦のお面で鬼退治」

1月31日(日) 14：00～15：00

20組先着順。鬼瓦のデザインでお面をつくり、豆まきをします。

iii) 展示解説 会期中の日曜日 13：30～14：00

● 展示遺跡一覧 ●

No	遺跡名	所在地
1	坂元遺跡	加古川市野口町坂元・野口
2	東南遺跡	揖保郡太子町鵜
3	上三河遺跡	佐用郡佐用町上三河
4	竹万宮ノ前遺跡	赤穂郡上郡町竹万
5	窟屋1号墳	三木市志染町窟屋
6	下加茂遺跡	洲本市下加茂2丁目

No	遺跡名	所在地
7	若水古墳群	朝来市山東町粟鹿
8	柴遺跡	朝来市山東町柴字別久
9	塚ノ山1号墳	篠山市野間字東山
10	中佐治古墳群	丹波市青垣町中佐治
11	原田西遺跡	伊丹市岩屋
12	三田城跡・三田陣屋跡	三田市天神2丁目



〈参考文献〉

今回紹介した遺跡については平成20年度に兵庫県教育委員会が刊行した各遺跡の報告書を参考にしました。

21教 ㊞ 2-033A4